



OpenGL ES2.0
クロスプラットフォームシェーダ開発

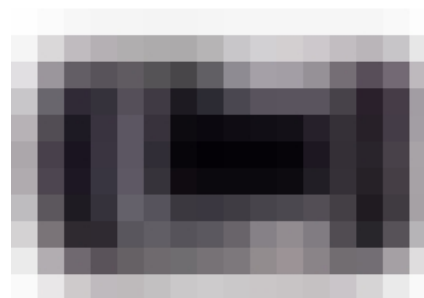
株式会社セガ
CS R&D推進部
林 洋人

- 1997年入社
- Dreamcast SDK開発
- 社内向けおよび外注向けグラフィックス開発サポート
 - Dreamcast, GAMECUBE, Wii, LINDBERGH (OpenGL2.0), PSP, DirectX9, iPhone, Nintendo3DS, ...
- ソニックワールドアドベンチャー (Wii版) 描画
- リルぷりっゆびふるひめチェン!描画

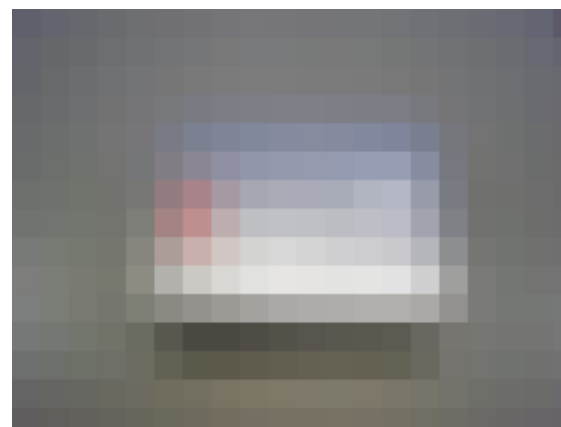
- 3DグラフィックスAPI
 - 組み込み機器向けOpenGL
 - Khronos Group
- OpenGLの仕様を整理
 - 現代のハードウェアに沿った形に
 - 互換性のためのAPIを廃止
 - 実装が小さくなるように
- ハードウェアの能力に合わせたバージョン
 - OpenGL ES1.0 CL, CM
 - OpenGL ES1.1 CL, CM
 - OpenGL ES2.0

- OpenGL 2.0ベース
- プログラマブルシェーダ必須
- 仕様のさらなる整理
 - OpenGL ES1.1の上位互換ではない
 - ただし、ES2.0対応プラットフォームはES1.1にも対応していることが多い
 - OpenGL 2.0 のサブセットに近いが一部違う
- 最近のスマートフォン用チップはほぼ対応

- あるモバイル機



- さるアーケードボード



OS, 性能は違うがどちらも
OpenGL ES2.0 に対応

クロスプラットフォームの夢（その2）



- iPhone 3GS
- iPod Touch
（第三世代）
- iPhone 4
数千万台
- iPad
数百万台



- Android 2.1～
 - Desire
 - Droid
 - 今後も続々と発売予定

これら全てが

OpenGL ES2.0 対応

ばんざい!



- 真のクロスプラットフォーム時代
 - モバイル機でも PLAYSTATION3, Xbox360 のようなプログラマブルなシェーダ
 - グラフィックスプログラミングはプラットフォームを問わなくなる
 - オープンな規格で対応プラットフォームも多いため、公開情報も充実している

CEDECで講演するようなことは何もない

とはいきませんでした...

- 多くの OpenGL ES2.0 情報はプラットフォーム間の同じところについて説明している
- 実際の開発では違うところに問題が発生する
- 似ているということは違うということ

そこで

- まず同じOpenGL ES2.0プラットフォーム間の違いを理解する
- その上であらためて、クロスプラットフォーム化についてのアイデアへ
- アートワークや実装に関するTIPS

- GPUコア
- OpenGL ES2.0拡張
- ターゲットOS
- 開発環境
- 性能

- 主要なGPUコアアーキテクチャ
 - Imagination Technologies PowerVR SGX
 - AMD Z430
 - NVIDIA Tegra 250

 - ARM Mali-200 / Mali-400MP
 - Marvell ARMADA 5xx
 - DMP SMAPH-S

- Samsung S5PC100
 - iPhone 3GS
- Apple A4
 - iPhone 4, iPad
- Freescale i.MX515
 - NetWalker
- Texas Instruments OMAP35x
 - Androidタブレット

- AMD Z430
 - Qualcomm Snapdragon
 - 非常に多くのスマートフォンに採用
 - ATI → AMD → Qualcomm

- NVIDIA Tegra 250
 - dynabook AZ
- ARM Mali-200 / Mali-400MP
 - CPUはほぼARMに統一された
- Marvell ARMADA
 - スマートフォンの低価格化？
- DMP SMAPH-S
 - Nintendo3DS のPICA200 はOpenGL ES2.0ではない

- CPU側もバリエーション
- ほとんどが ARM系
 - ARM11 (ARMv6)
 - Cortex-A8 (ARMv7)
- グラフィックスに有効な拡張命令
 - VFP命令
 - NEON命令



- OpenGL ES2.0拡張
 - 追加拡張機能
 - ハードウェア機能の違いを反映
 - 例：便利な機能が多数追加されているGPU
 - 例：ほとんど拡張が使えないエミュレータ
 - ドライバの違い
 - 拡張といっても避けては通れない
 - 例：テクスチャ圧縮は全て拡張
 - `glGetString(GL_EXTENSIONS)`

OpenGL ES2.0拡張 (その3)



	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
		iPhone 3GS OS4.0	iPad	あるボード	ある端末	Qualcomm Adreno Emulator	AMD GLES2.0 Emulator	NVIDIA ES2.0 Emulator	ARM Mali Emulator	PVR GLES2 Emulator	iPhone Simulator 3.2	iPhone Simulator 4.0
1												
2												
3	GL_AMD_alpha_test	X	X	X	X	O	O	X	X	X	X	X
4	GL_AMD_compressed_3DC_texture	X	X	X	O	O	O	X	X	X	X	X
5	GL_AMD_compressed_ATO_texture	X	X	X	O	O	O	X	X	X	X	X
6	GL_AMD_joic_op	X	X	X	X	O	O	X	X	X	X	X
7	GL_AMD_performance_monitor	X	X	X	O	X	X	X	X	X	X	X
8	GL_AMD_program_binary_Z400	X	X	X	O	O	O	X	X	X	X	X
9	GL_AMD_tiled_rendering	X	X	X	O	X	X	X	X	X	X	X
10	GL_AMD_writeonly_rendering	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
11	GL_APPLE_framebuffer_multisample	O	X	X	X	X	X	X	X	X	X	O
12	GL_APPLE_rgb_422	O	X	X	X	X	X	X	X	X	X	O
13	GL_APPLE_texture_format_BGRA8888	O	X	X	X	X	X	X	X	X	X	O
14	GL_APPLE_texture_max_level	O	X	X	X	X	X	X	X	X	X	O
15	GL_IMG_read_format	O	O	O	X	X	X	X	X	X	O	O
16	GL_IMG_program_binary	X	X	O	X	X	X	X	X	X	X	X
17	GL_IMG_shader_binary	X	X	O	X	X	X	X	X	X	X	X
18	GL_IMG_texture_compression_pvrtc	O	O	O	X	X	X	X	X	O	O	O
19	GL_IMG_texture_format_BGRA8888	X	O	O	X	X	X	X	X	X	O	X
20	GL_IMG_texture_npot	X	X	O	X	X	X	X	X	X	X	X
21	GL_IMG_texture_stream2	X	X	O	X	X	X	X	X	X	X	X
22	GL_NVJoc_textures	X	X	X	X	X	X	O	X	X	X	X
23	GL_EXT_blend_minmax	O	O	X	X	X	X	X	X	X	O	O
24	GL_EXT_multi_draw_arrays	X	X	O	X	X	X	X	X	O	X	X
25	GL_EXT_texture_filter_anisotropic	O	X	X	O	O	O	X	X	X	X	O
26	GL_EXT_texture_format_BGRA8888	X	X	O	X	X	X	X	X	X	X	X
27	GL_EXT_texture_type_2_10_10_10_REV	X	X	X	O	O	O	X	X	X	X	X
28	GL_EXT_bgra	X	X	X	O	X	X	X	X	X	X	X
29	GL_EXT_discard_framebuffer	O	X	X	X	X	X	X	X	X	X	O
30	GL_EXT_read_format_bgra	O	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
31	GL_EXT_texture_compression_dxt1	X	X	X	X	X	O	X	X	X	X	X
32	GL_EXT_texture_compression_s3tc	X	X	X	X	X	X	O	X	X	X	X
33	GL_EXT_shader_texture_lod	O	X	X	X	X	X	X	X	X	X	O
34	GL_OES_compressed_ETC1_RGB8_texture	X	X	O	O	O	O	X	O	O	X	X
35	GL_OES_compressed_paletted_texture	X	X	X	O	O	O	O	X	X	X	X
36	GL_OES_depth_texture	O	X	O	O	O	O	X	X	X	X	O
37	GL_OES_depth24	O	O	O	O	O	O	X	X	X	O	O
38	GL_OES_depth32	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
39	GL_OES_element_index_uint	X	X	O	O	O	O	O	X	O	X	X
40	GL_OES_fbo_render_mipmap	O	O	X	O	X	X	X	X	X	O	O
41	GL_OES_fragment_precision_high	X	X	O	O	O	O	O	X	O	X	X
42	GL_OES_framebuffer_object	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
43	GL_OES_get_program_binary	X	X	O	O	X	O	X	X	X	X	X
44	GL_OES_mapbuffer	O	O	O	X	X	X	O	X	O	O	O
45	GL_OES_packed_depth_stencil	O	O	X	O	O	O	X	X	X	X	X
46	GL_OES_read_format	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
47	GL_OES_required_internalformat	X	X	O	X	X	X	X	X	X	X	X
48	GL_OES_rgb8_rgba8	O	O	O	O	O	O	O	X	O	O	O
49	GL_OES_shader_binary	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
50	GL_OES_shader_source	X	X	X	X	X	X	O	X	X	X	X
51	GL_OES_standard_derivatives	O	O	O	O	O	O	X	X	X	X	X
52	GL_OES_stencil	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
53	GL_OES_stencil4	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
54	GL_OES_stencil8	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
55	GL_OES_texture_3D	X	X	X	O	O	O	X	X	X	X	X
56	GL_OES_texture_float	O	X	O	O	O	O	X	X	X	X	O
57	GL_OES_texture_float_linear	X	X	X	O	O	O	X	X	X	X	X
58	GL_OES_texture_half_float	O	X	O	O	O	O	O	X	O	X	O
59	GL_OES_texture_half_float_linear	X	X	X	O	O	O	X	X	X	X	X
60	GL_OES_texture_npot	X	X	X	O	O	O	X	X	X	X	X
61	GL_OES_vertex_array_object	O	X	X	X	X	X	X	X	X	X	O
62	GL_OES_vertex_half_float	X	X	O	O	O	O	X	X	O	X	X
63	GL_OES_vertex_type_10_10_10_2	X	X	X	O	O	O	X	X	X	X	X
64	GL_OES_EGL_image	X	X	O	O	X	X	X	X	X	X	X

- インプリメンテーション定数
 - テクスチャ枚数
 - テクスチャサイズ
 - シェーダ定数
- シェーダバイナリ対応
 - OpenGL2.0 から OpenGL ES2.0 で追加された機能

- 実機上シェーダコンパイルは遅い
 - CPUパワーが低い
 - 多くのシェーダバリエーション
 - オフラインで予めシェーダをコンパイル



- プリコンパイルができない環境もある
 - 仕様上サポートしなくてもよい
 - `GL_NUM_SHADER_BINARY_FORMATS`
 - 逆にバイナリにしか対応していないプラットフォームがある

- OpenGL 2.0 ではサポートされていない
 - PCとの互換性
 - NVIDIA Cg を `-ogls` オプションで使用すると GLSLをアセンブリにプリコンパイルできる
- OpenGL 4.1
 - ES2.0上位互換仕様
 - バイナリシェーダに対応
 - OpenGL ES2.0拡張は？

- iOS4.0
 - iPhone 3GS
 - iPod Touch (第三世代)
 - iPhone 4

- iOS3.2
 - iPad
 - iOS4 環境でも iOS3.2 用アプリは動作する
 - 使用できる OpenGL ES2.0 拡張が違う

- Android 2.0以降で対応
 - Android 1.6 は OpenGL ES2.0 未サポート
 - Xperia (Android 1.6)
 - IS01 (Android 1.6)

- Android 2.1
 - Snapdragon
 - Google Nexus One
 - HTC Desire X06HT
 - Dell Streak
 - OMAP35xx
 - Motorola Droid
 - Tegra
 - TOSHIBA dynabook AZ
 - PowerVR SGX
 - GALAXY S



- Windows Mobile 6.5
 - Toshiba T-01A, X-02T (Snapdragon)
- Windows Phone 7
 - OpenGL ES2.0 は非対応
 - グラフィックス開発は XNA に移行

- モバイル向けOSならなんでも
 - Palm webOS
 - Palm Pre Plus / Pixi Plus
 - Symbian
 - Sony Ericsson Satio
 - Linux系
 - Samsung Bada
 - Nokia, Intel MeeGo
 - Netwalker (Ubuntu)
 - Brew
 - LiMo

- WebGL
 - HTML5 canvas に描画
 - Javascript

ターゲットOSで開発環境や
プログラミング言語が決まってくる

- 開発環境の違い
 - プログラミング言語
 - ホストOS
 - コンパイラ
 - エミュレータ/シミュレータ

 - SDKとして提供される



- APPLE
 - iOS SDK
 - iPhone, iPodTouch, iPad 専用
 - Mac 環境
 - シミュレータの互換性が高い
 - しかし完全ではない
 - ドキュメントも充実
 - コミュニティもクローズだが活発



- Imagination Technologies
 - PowerVR SDK
 - iPhone 以外の PowerVR 採用環境
 - Windows, Linux ホスト
 - 充実している
 - アートパイプライン
 - シェーダツール
 - 掲示板
 - 日本語サイトは古い



- AMD
 - 安定していたがサポート終了
- Qualcomm
 - Adreno SDK
 - AMD環境を引き継いでいる
- NVIDIA
 - Tegra Development Tools
- ARM
 - Mali SDK
- Texas Instruments
 - OMAP Graphics SDK

- EGL
 - C言語
 - Windows, Linux など
 - AMD, PowerVR, Tegra, Mali SDK
 - 互換性が比較的高い

 - NVIDIA, PowerVR, AMD, ARM 環境を同時にインストールしてビルド設定で切り替えられるようにする

- EAGL
 - iOS SDK
 - Objective-C 言語
- Objective-C
 - Objective-C はC言語の上位互換
 - C++も使える

- Android
 - Java 言語
- Android NDK
 - Java からネイティブコードを呼び出せる
 - GLSurfaceView

フレームワークとアプリケーションを分離しておくと、アプリケーションとライブラリは C/C++ で書ける



- JNI (Java Native Interface)
 - ネイティブコードを呼び出すことができる
- Android NDK (Native Development Kit) で C/C++ で記述
 - 高速
 - バイナリの非互換性
 - OpenGL ES2.0 に対応した NDK r4(b)



- エミュレータが OpenGL ES2.0 に未対応
 - OpenGL ES1.1には対応しているのに...
 - 実機の入手性
- デバッグ環境が未整備
 - gdb を使う
 - マルチスレッドに未対応
 - OpenGL ES は別スレッド動作
- まだまだこれから
 - しかしオープンなので掲示板などで情報が得やすい

- OpenGL2.0向けライブラリとシェーダを移植
- 開発環境
 - Windows上のES2.0エミュレータ環境
 - iPhoneシミュレータ環境
 - iPhone 3GS実機
 - iPad実機
- iPad, iPhone 3GS で家庭用ゲーム機向けデータを描画してみた

- 次世代機向け
- 14240頂点
- 41ボーン
- 9 マテリアル
- マルチテクスチャ
 - カラーマップ
 - スペキュラマップ
 - 法線マップ
- フラグメントライティング

- あっさり表示された！
- iPadは表示されたものを他人に見せるのに最適

6FPSですけど...



iPod Touch (第三世代)



- iPod Touch のほうが性能は低いのに速い
- 解像度が違いすぎる

まあそれでも9FPSとかですけど...

裏面の特定の場所が熱々になります
iPhone4も似たようなものです



- 性能

- ハードウェア性能の違い
- コンシューマ機との差

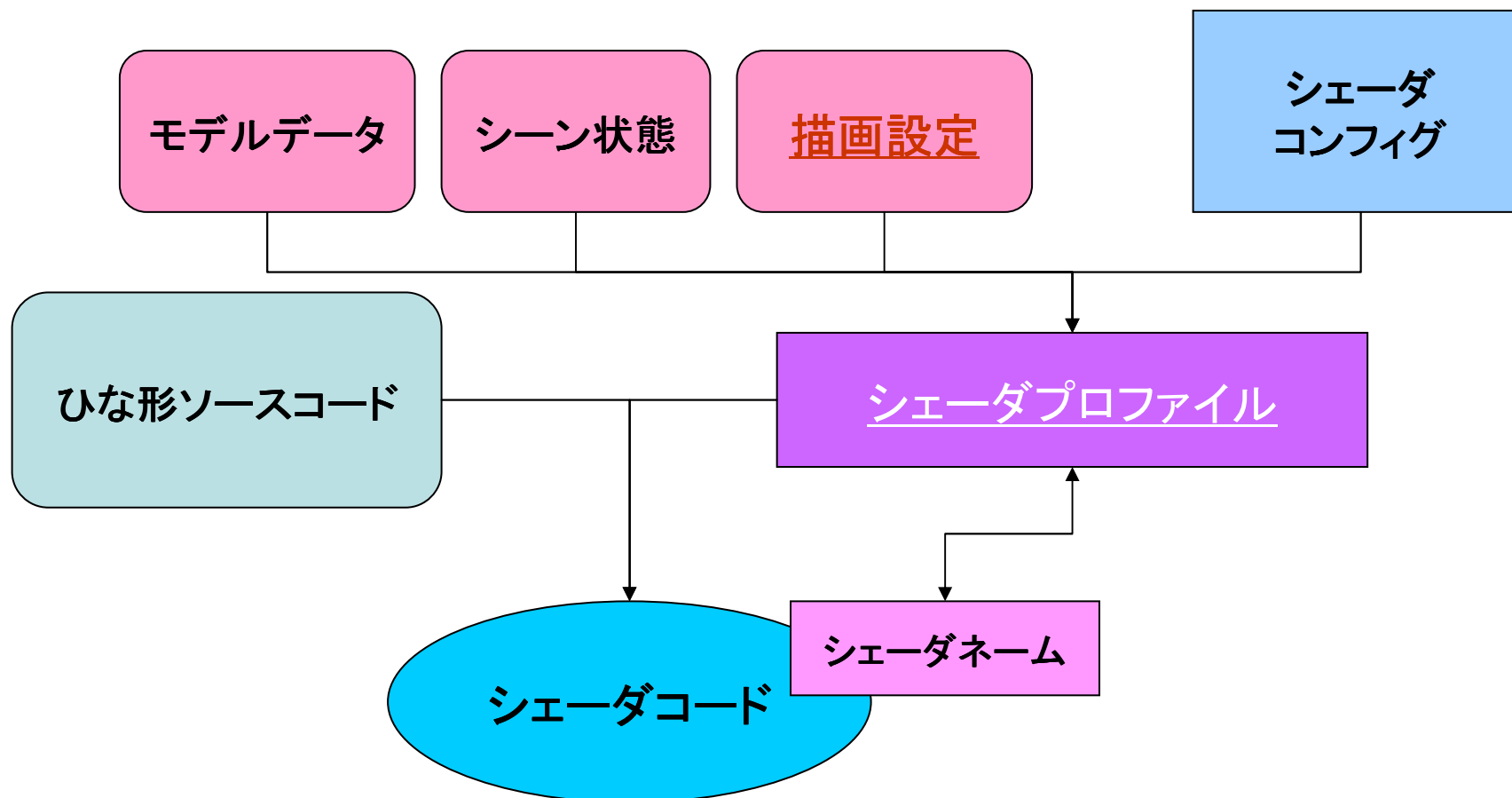
- バランスの違い

- 頂点処理
- フラグメント処理
- CPU性能
- 帯域

- 結局プラットフォーム最適化？

- スケーラビリティを確保
 - シェーダビルドシステム
 - シェーダコンフィグレーション
- 頂点フォーマット
- テクスチャ
- アルファテスト
- その他

- 条件に応じて必要なシェーダのバリエーションを作成する





- マテリアル
 - テクスチャ枚数、環境、ブレンド
 - ライティングモデル
- 頂点
 - スキニング
 - テクスチャ座標
 - 頂点カラー
 - 法線／接線／従法線

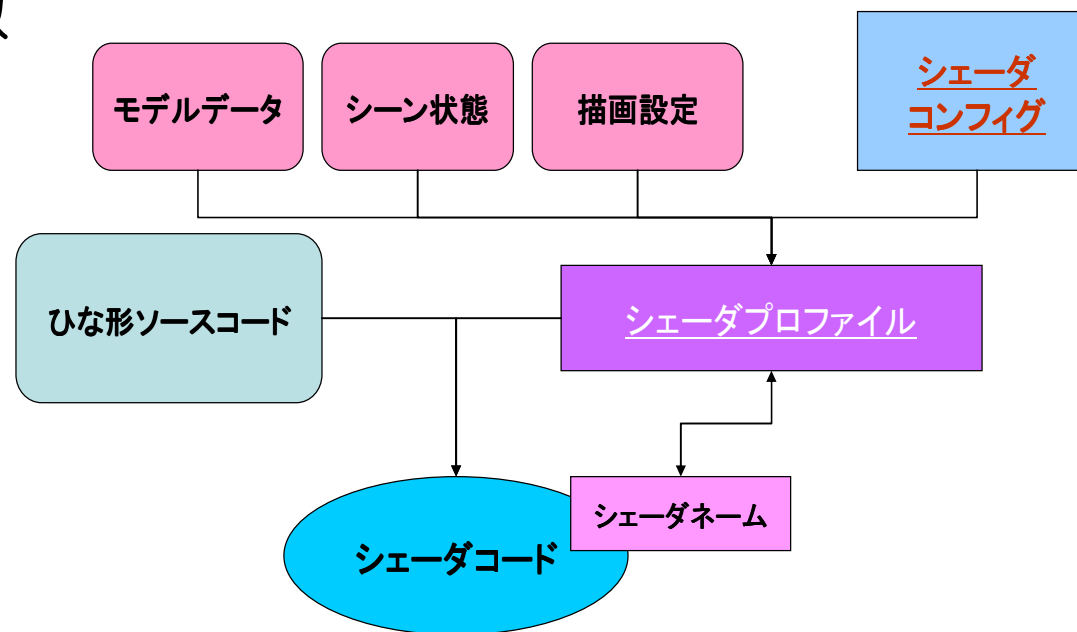


- シーン
 - ライト
 - フォグ
- 描画設定
 - インタラクティブな変更
 - シャドウ描画
 - シェーダLOD
 - デバッグ描画

• シェーダコンフィグ

– 全てのシェーダで共通になる設定

- 最大ライト個数
- 最大ボーン数
- フォグモデル



– プラットフォームに合わせた基本設定

- 精度指定

- OpenGL ES2.0 ではシェーダ内変数に精度を指定できる

- highp
 - mediump
 - lowp

- ハードウェアが実際に対応していて精度を下
げると処理が速い

- highp
 - $2^{-62} \sim 2^{62}$
 - 相対精度16ビット
 - フラグメントシェーダでは指定できない場合がある
 - `GL_FRAGMENT_PRECISION_HIGH`

- mediump
 - $2^{-14} \sim 2^{14}$
 - 相対精度 10ビット
 - 意外に精度がある
 - 10ビット → 1m に対する 1mm
- lowp
 - $-2 \sim 2$
 - 絶対精度 1/256
 - カラーや方向ベクトル用途

- 精度を使い分ける
 - シェーダ内変数宣言でマクロ指定
 - 位置座標タイプ
 - テクスチャ座標タイプ
 - 色タイプ
 - 方向ベクトルタイプ
 - タイプごとに調整

- 設定例

高精度
位置座標

中精度
テクスチャ座標

低精度
色要素
方向ベクトル要素

- デフォルト指定
 - precision mediump float など
 - デフォルトのデフォルト
 - 頂点シェーダ highp
 - フラグメントシェーダは指定を省略できない

- uniform, varyingの精度
 - 頂点シェーダとフラグメントシェーダで同じ精度が必要
 - フラグメントシェーダで高精度が使えない場合
 - 中精度か低精度に統一する
- エミュレータは無視するだけ
 - 実機で確認する必要がある

- テクスチャ圧縮
- ファイルフォーマット
- アーティスト向けツール

- ゲーム開発にテクスチャ圧縮は必須
 - メモリサイズ
 - 描画性能（帯域幅）
 - UMA
 - 配信容量
 - 3Gで配信できるか
- ハードウェアによって対応している圧縮方式が違う
- インストール時やロード時の圧縮も難しい

- パレット（インデックス）テクスチャ
 - ETC
 - PVRTC
 - ATC
 - DXTC (S3TC)
-
- どれも OpenGL ES2.0 のAPI使用方法は同じなので、全てに対応しておくのがよい

- OES_compressed_paletted_texture 拡張
- 4bit (16色) / 8bit (256色) + パレット
- OpenGL ES2.0 の標準拡張
- PS2開発などでおなじみ

- iPhone 3GS は対応していない
- APIが用意されていてもハードウェア的に対応しているとは限らない
- ミップマップに弱い

- GL_OES_compressed_ETC1_RGB8_texture 拡張
- Khronosが提唱する標準的な圧縮形式
- 4bit/pixel
- 多くのビデオチップが対応している
 - PowerVR SGX, AMD Z430, NVIDIA Tegra, ARM Mali
- α 値を持ってない
- ハードウェアは対応しているはずだが iPhone 3GS では使えない

- GL_IMG_texture_compression_pvrtc 拡張
- 2bit/pixel, 4bit/pixel
- にじむがかなり強力な圧縮

- iPhone, iPad などPowerVR系GPUで使える

- 他社のGPUではサポートされない

- GL_EXT_texture_compression_s3tc 拡張
- おなじみDXTCと同じもの
 - DXT1, DXT3, DXT5
- NVIDIA Tegra で使える
- GL_EXT_texture_compression_latc という
Luminance-Alpha用も

- GL_AMD_compressed_ATC_texture 拡張
- 4bit/pixel, 8bit/pixel
- AMD系GPUで使える
- DXTCと同じように使える
 - DXT1, DXT3, DXT5 相当
- アルゴリズムが非公開
 - 圧縮にはAMD提供のツールを使うしかない
- 他社のGPUでは使えない

- 各ベンダがライブラリやコマンドラインツールを提供している
 - nvcompress (NVIDIA)
 - ATI_compress (AMD)
 - PVRTexTool (Imagination Technologies)
 - Mali GPU Texture Compression Tool (ARM)

- ファイルフォーマットに何を採用するか？
 - OpenGL ESとしては特に定義されていない
 - TGA, PNG, DDS, PVR, etc ...
 - 圧縮、ミップマップ、パレットに対応したい

- 汎用でアーティストが扱いやすい
- ミップマップや圧縮に対応しない

- 読み込み時にハードウェアに合わせた変換が必要
 - 開発中には使えそうだがモバイル機には重い

- 事実上の標準
- 表現範囲が広い
 - テクスセルフォーマット、圧縮形式、浮動小数点形式
 - ミップマップ
 - パレットも記述できる
- 範囲が広すぎてツールによって対応範囲がまちまち
- PVRTCが格納できない
 - 独自に拡張する？

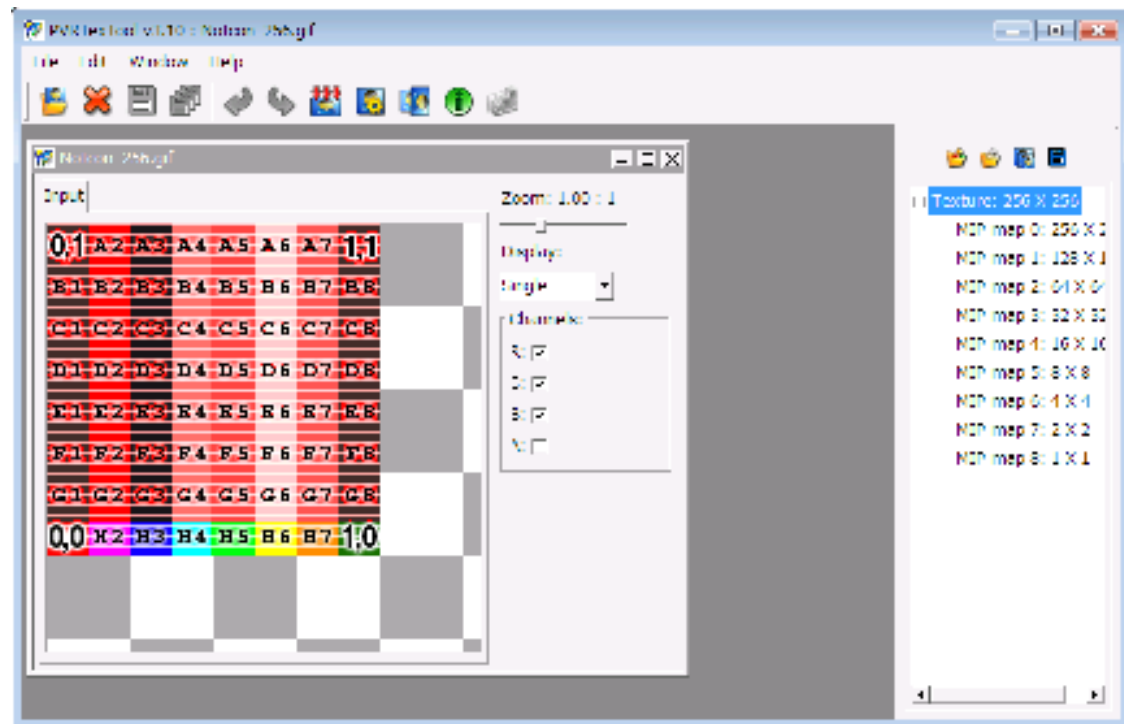
- 各種テクセルフォーマットに対応
- PVRTC, ETC圧縮に対応

- PVRTexTool は良好
- 他に対応ツールがない

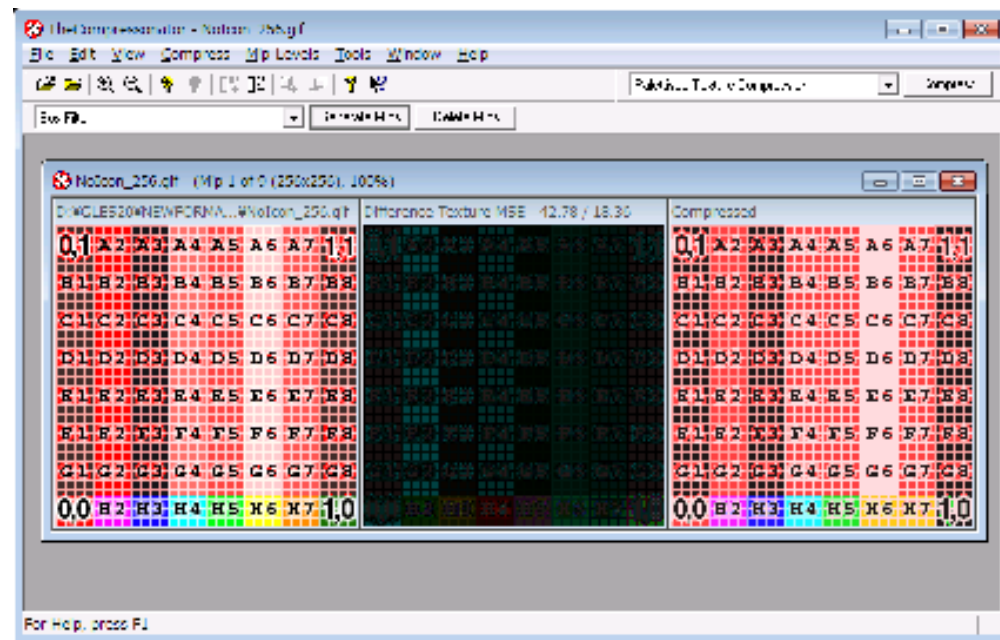
- 画像を確認しながら変換できるツールは？
 - PVRTexTool (IMGTEC)
 - Compressorator (AMD)
 - Mali GPU Texture Compression Tool (ARM)

 - NVIDIA DDS Plug-in (NVIDIA)
 - DirectX Texture Tool (Microsoft)
 - OPTPiX imesta (ウェブテクノロジー)

- PVRTC, ETC が作成できる
- ファイルは PVR
- 機能も充実



- ETC, S3TC, ATCが作成できる
- ファイルは DDS
- パレットが扱える...が方言が強い
 - 独自 FourCC
 - RGBA が逆





- ファイルはDDS
- 意外に対応しているフォーマットが狭い
 - ETC, ATC不可
 - パレット不可
 - Direct3D 10形式不可 (!)

- Photoshop上で使えるのは大きなメリット
 - ミップマップもOK
- ファイルはDDS

- PVR, ETC, ATC, パレットなどOpenGL ES
に向けた圧縮に対応していない...

- ランタイムは DDS と PVR の両対応で
いたいカバーできる
- プレビュー
 - ETC, ATC は AMD のエミュレータで描画できる
 - PVR はエミュレータで描画できる
 - PVRは展開ライブラリも用意されている



- glGet系の多くの関数
 - 自分で覚えておく
 - 標準のOpenGLでも呼び出しを回避できる
- 固定パイプラインパラメータ
 - マトリクス
 - ライトやフォグ
 - 独自に定義する
- アルファテスト

- フラグメントシェーダで分岐
 - discard 命令
 - `if (fragAlpha <= alphaRef) discard;`
 - しかしはっきりと遅くなる！
 - 不透明ポリゴンのオーバードローを回避するタイトルベースアーキテクチャのメリットが無くなる
 - アルファテストをするマテリアルとしないマテリアルでシェーダを分ける
 - シェーダプロファイルに追加

- 頂点データ
 - GL_OES_vertex_half_float
 - 16bit浮動小数点数は C/C++ 言語で直接記述できないが編集しなければ問題ない
 - 拡張なのでプラットフォームによる

 - 16bit固定小数点数とスケールリングも有効
 - テクスチャ座標
 - 場合によっては位置座標も
 - 法線は8bit×3 でもいい

- 頂点フォーマット
 - 位置, テクスチャ座標 float → short
 - 法線 float → byte
- テクスチャ
 - PVR圧縮 (カラー系 2bpp, 法線 4bpp)
- シェーダ
 - 中精度
 - カラーと方向ベクトルは低精度

最適化結果 (その2)

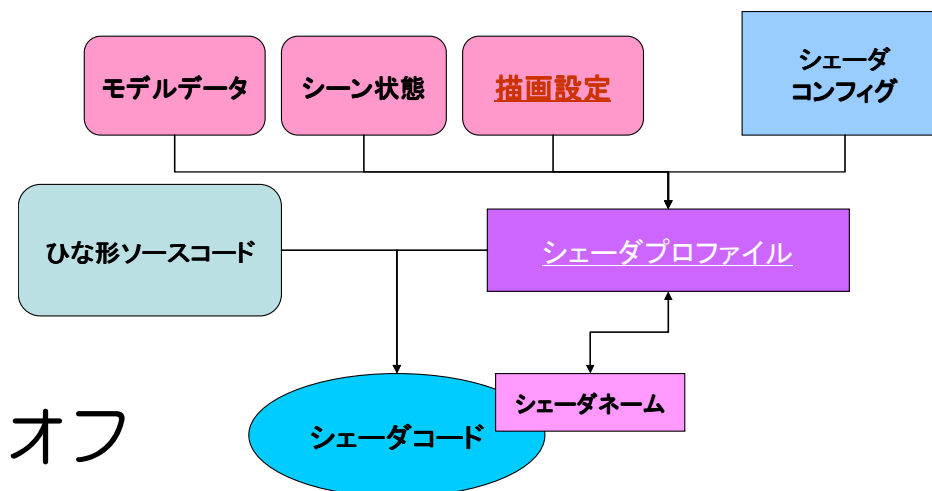


6FPS → 8FPS に！ (iPad)

9FPS → 12FPS に！ (iPod Touch)

ええー？

- シェーディングモデル
 - フラグメントライティング
 - 頂点ライティング
 - 法線マップオフ
 - 接線従法線オフ
 - なし
 - スペキュラマップもオフ
 - 法線オフ



- シェーダコンフィグでなく描画設定で

シェーディングモデルの変更（その1）



- 頂点単位
シェーディング
 - 法線マップなし
 - スペキュラマップ
 - 環境マップ

8FPS → 30~ FPS



- シェーディングなし
 - カラーマップ
 - 環境マップ

8FPS → 30~60 FPS

- テクスチャも個別にオンオフ
 - 環境マップもなし
- 60~ FPS



- マテリアル数を減らす
 - 第一原則
- しかし不透明とそれ以外（パンチスルー & 半透明）を分ける
 - ETC1圧縮は不透明のみ
 - アルファテストは大きな性能低下を招く

- 機能の有無に両対応
 - 法線マップなし
 - スペキュラなし
 - ライティングなし
- 低精度対応
 - 大きなものと小さなものを1つのモデルに入れない
 - テクスチャのリピートをしすぎない
- 拡張機能を使用しない
 - テクスチャサイズは2のべき乗

- OpenGL ES2.0 はプラットフォームではない
 - ES2.0 の使用できる多くのプラットフォーム
 - しかし同時対応は可能
- スケーラビリティ
 - プログラマブルシェーダのもう1つの役割

- 少量多品種
 - 1プラットフォームで5年のコンシューマ
 - 1年に5プラットフォームのOpenGL ES2.0
- ビジネスや開発ペースのギアチェンジ
 - 何が勝つかは分からない

プラットフォームを決定して
最適なゲームやアートアセットを作成する

ゲームやアートアセットを作成しながら
多くのプラットフォームに移植していく

- ポストエフェクト
- 描画解像度
- ミドルウェア

- シェーダ時代の必須表現
- 苦手
 - タイルベースレンダリングのメリットが得られない
- 回数を減らす
 - バックバッファレンダリングからフロントバッファへコピーするときに

- レンダーテクスチャの仕様にも幅がある
 - COMPLETEになる条件
 - 例：2のべき乗サイズ
 - 例：カラーとデプスのビット数を合わせる
 - iPhoneはアンチエイリアスがかけられる

- 解像度を下げしてみる
 - 画面サイズが分かっている
 - 画面サイズが小さいと違和感は少ない
- 処理が重いかどうかを動的に判断する
 - 意外に違和感がない
 - 元々フレームレートが不安定なので可変フレームレートに対応する

- Unity
 - iPhone
 - Windows, Mac, Web, Wii
- Torque Game Engine
 - iPhone
 - Windows, Mac, Linux, Xbox360, Wii
- UnrealEngine3

- Airplay
 - iPhone, Android
 - Symbian, Brew, Windows Mobile

- MascotCapsule eruption
 - iPhone, Android
 - Symbian, Brew, Windows Mobile, Java系

連絡先 : hayashih@soj.sega.co.jp